

神戸大学主催の高大連携講義の日程と内容が決定しました!

人文科学系の連携講義「人文科学通論」の講義内容紹介

2005年度の神戸大学主催の高大連携講義(夏季集中講座)は、自然科学系、人文科学系ともに、8月8日から11日までの4日間と決定しました。前回(第2号)紹介したのは、自然科学系の連携講義「自然科学通論」でした。今回は文系科目である「人文科学通論」の講義内容です。

講義のタイトルは以下の通りですが、詳しい講義内容は下記の脚注¹に記載されたホームページに詳しく記載されています。なお、神戸大学主催の人文科学系の高大連携講義「人文科学通論」は、日程は同じですが、講義実施時間が「自然科学通論」とは少しずれていますのでご注意ください。また、「人文科学通論」については神戸高校主催の講義は行われません。よって、高校での単位認定を行う制度はありません。ご了承ください。文責(志)

平成17年度 神戸大学高大連携講義 「人文科学通論」

8月8日(月)から8月11日(木) 10時0分から午前中90分講義2本、午後90分講義1本
統一テーマ: -グローバル化と現代社会の諸問題-

題目: 「20世紀日本語文学と複数文化」 講師: 樋口大祐(文学部)

概要: 「グローバル化は、世界中で、複数の文化に精神的故郷(アイデンティティ)を感じる人々を増やしていく側面を持っています。しかし、このような現象は、必ずしも最近になって始まった現象ではありません。本講義では、20世紀の日本で書かれた文学作品を具体的にとりあげ、グローバル化の過去と現在における違い、及び、この過程が人々の生活と意識をどのように変えてきたのかについて考えます。」

高校生へのメッセージ等: 「高校時代は大学受験を控えて、色々と悩み多い時代だと思います。でも、受験は人生のほんの一コマに過ぎません。世界の多様性、その懐の深さに対する信頼感を持って、この時期を乗り切ってください。」

題目: 日本人は列島の周辺部をいかに考えてきたか-「女人国」をめぐる- 講師: 藤田裕嗣(文学部・教授)

概要: 「グローバル化」について「過去」に遡って考察する際、日本列島の周りがまづは問題となろう。日本人は、日本列島の周辺部をいかに考えてきたのであろうか。この問題に具体的に迫るために、古地図を取り上げ、日本と世界レベルの地図から探る。周辺に描かれ、「女人国」とも総称される対象を材料に考えてみたい。

高校生へのメッセージ等: 外国人は何を考えているか判らない、と漠然と思ってはいないだろうか? 異性の真情を探るのも難しいですね。相互理解のためには、まずは、彼らも自分と同じ人間なのだという前提から出発すべきでしょう。過去に遡る意味は、ロマンを求めるだけでなく、「人の振り見て我が振り直せ」、なのである。

題目: 心理学 -脳・機械・人間- 講師: 喜多伸一(文学部)

概要: 心理学は、名前は誰でも知っていて関心も高いにもかかわらず、内容はそれほどよく知られていない学問分野です。心理学にもさまざまな分野がありますが、神戸大学文学部では基礎を重視し、心理学実験に基づいた教育研究を行っています。この分野では、見る・聞く・考える・体を動かす・言葉を使う・人と交わるといった心のはたらきを、実験を用いて計測し、理論化するという方法を採用しています。このような研究方法は、理工学・基礎医学・教育学・社会科学といった隣接分野との共通性が高いので、研究交流も盛んに行われています。授業では、基礎的な実験心理学の特徴を明らかにし、隣接分野との関係の深さを伝えたいと考えています。

眼で見て外界を認識するという点に関する実験心理学の研究例を紹介し、ロボット研究や脳科学との関係を説明します。

高校生へのメッセージ等: 理科系と文科系を区別するという考え方はできるだけ早く捨ててください。大学受験まではそのような考え方は意味があるかもしれませんが、その後は無意味で有害です。現代の生活は科学研究の成果の上に成立しており、科学と社会は密接不可分です。理科系と文科系の素養を合わせもつ人だけが、科学と社会の両方に対し健全に接することができ、物心両面において豊かな未来を築くことができます。この授業がそのような人を生み出すことに役立つことを希求します。

1 神戸大学ホームページ URL <http://www.u-kobe.ac.jp/> または「物理の小道」URL <http://tachiro.client.jp/>

題目：東アジア共同体の過去と現在 講師：緒形 康(文学部)

概要： アジア主義と呼ばれた明治以来の思想や活動について最初に考えてみます。例えば、宮沢賢治という作家が大東亜共栄圏の時代に多くの読者を獲得したと言ったら、皆さんはさぞ驚くでしょう。宮沢賢治の童話とアジア主義とはどう関わるのでしょうか。現在の自動車産業が日本で勃興するもアジア主義が大東亜共栄圏へと転換する1930年代です。講義は、こうして戦後の経済発展へとすすんでゆきます。私たちの身近に「戦前」の影が予想以上に多いことに、皆さんは驚かれるでしょう。

高校生へのメッセージ等： 学校で勉強している世界史と日本史の近代以後の部分を、互いに関連付けながら理解するように、普段から心がけましょう。

題目：「第二言語とグローバル化」 講師：田中 順子(国際文化学部 助教授)

概要： グローバリゼーションの進展により、第二言語(母国語以外の言語)を生活言語として使用し、教育を受け、就業する人々が、海外でも日本国内でも増加しています。多言語併用社会の先駆けであるカナダ・米国の状況や言語政策をふまえ、第二言語使用者をとりまく問題について、言語発達と発達支援を主軸にして考察します。

題目：「グローバル化と暴力」 講師：上野 成利(国際文化学部 助教授)

概要： グローバル化が加速度的に進行するなか、テロや戦争が不気味な拡がりを見せている。だがこうした暴力は文明に敵対する蛮行なのか。むしろ文明の内部にこそ暴力は潜んでいるのではないか。――二〇世紀の経験が突きつけたこの問いを出発点に、現代社会における暴力の意味について考えたい。

題目：「グローバル化と中東」 講師：中村 覚(国際文化学部 助教授)

概要： アラブの国々では、1960年代までアラブ民族主義が盛んであったが、1970年代以降はイスラーム復興が続いている。現在アラブ諸国は、グローバル化による経済自由化の波ばかりではなく、相次ぐ戦争やテロの影響を強く受けながら、政治制度、信仰の形態、欧米諸国との国際関係の全ての面で、新しい姿を模索している。

題目：「国際協力・国際交流と平和のつくりかた」 講師：石原 享一(国際文化学部 教授)

概要： 経済のグローバル化の進展は、各国・地域間の相互依存関係を強める一方、南北格差を拡大し、文化摩擦や地域紛争を頻発させることにもなりました。国際協力・国際交流を通じて平和共存を達成するには、どのような観点から制度を構築し、行動していけばよいのか、共に考え、共に悩んでみよう。

題目：人間の発達と言葉の役割 講師：二宮 厚美(発達科学部 教授)

概要： 人類の始まりから、人間の発達は「労働と言語」によって築かれてきました。現代では、そのなかでも言葉とコミュニケーションを通じた人間の発達がとりわけ重要になっています。情報化社会のなかで言葉を通じて人間はどのように発達を遂げていくのか、このことを労働の役割と重ねて考えていくことにします。

高校生へのメッセージ等： ものごとを理論的にとらえるということはどういうことなのかを学んでもらいたいと思います。

題目：脱学校論を知ってるか？ 講師：松岡 広路(発達科学部 助教授)

概要： 学校で学習することが、人々の学習の中心であると思っている人はいませんか。この授業では、学校の問題点がどのように現代社会において批判されているのかを考えます。脱学校論という考え方を紹介しつつ、学校外のさまざまな学習のありようを見つめましょう。また、生涯学習社会が標榜される現代においてどのような学習および学習支援が重要なのかを、参加されるみなさんと共に考えることが出来るような工夫をしたいと思

います。
高校生へのメッセージ等： 大学の授業は面白いよ。

題目：思春期と心の自立 講師：相澤 直樹(発達科学部 講師)

概要： 思春期は、心の自立の時期と言われていました。しかし、そうは言っても今ひとつピンと来ない人が多いのではないのでしょうか？ 今回の授業では、身近な体験例と心理学的資料を引きながら、心の自立という問題について専門的に考えてみたいと思います。

高校生へのメッセージ等： 心理学の実際にできるだけ触れてもらえればと思います。

題目：発達支援を考える：支援－被支援から相互支援への転換 講師：伊藤 篤(発達科学部 助教授)

概要： 子どもの発達支援、なかでも主に母親を対象とした家庭支援活動の実態を例にあげながら、従来からなされてきた「支援される側・支援する側」という構造から、支援者コール被支援者・被支援者イコール支援者といった「相互支援」への転換によって、どのようなコミュニティが生まれるのかを検討してみたい。
